

第5回 新居浜市立地適正化計画策定委員会 議事録

- 1 日 時 令和6年9月2日(月)14時から15時10分まで
- 2 場 所 市役所消防防災合同庁舎 5階 災害対策室
- 3 出席者 13名
- | | |
|--------|---------------------|
| 坪田 隆宏 | (愛媛大学大学院理工学研究科 准教授) |
| 早瀬 伸樹 | (新居浜工業高等専門学校 副校長) |
| 白石 亘 | (新居浜市社会福祉協議会 常務理事) |
| 星加 勝一 | (新居浜市連合自治会 副会長) |
| 加藤 すみれ | (新居浜市女性連合協議会 副会長) |
| 藤田 敏樹 | (新居浜商工会議所 専務理事) |
| 藤田 幸正 | (新居浜市農業委員会 会長) |
| 政石 信行 | (愛媛県建築士会新居浜支部 理事) |
| 宮崎 達也 | (新居浜市 PTA 連合会 会長) |
| 黒光 恵 | (市民委員) |
| 高橋 宣行 | (建設部長) |
| 小澤 昇 | (危機管理監) |
| 三並 弘昭 | (政策推進室長) |

- 4 事務局 4名(都市計画課)
- | | |
|--------|-------|
| 町田 京三 | (課長) |
| 井手 義治 | (技幹) |
| 三並 真由美 | (副課長) |
| 村上 智彦 | (主任) |

5 議事内容

■次第1 災害リスク分析について

【藤田幸正委員】

高潮や津波については、地震時において同様な浸水想定がなされているが、そこまでのものは考えにくい。津波に関しては、瀬戸内海での発生は無いという事であり、南海トラフによるものとしても、瀬戸内海に到達するまでは、時間も距離も要するため、想定されている津波の高さは低いとされている。また、高潮についても、今まで越水をしたということは、聞いたことがない。津波も高潮も想定が大きすぎるとわれ、感覚的に捉えにくい。

【事務局】

高潮に関しては、主に台風時をモデルケースとして、台風による気圧の低下と吹き寄

せによる浸水想定シミュレーションをしており、既往の最高位よりは高いものとなっている。また越水については、今までも護岸から波が超えてくるという現象はある。津波については、満潮時に地震が発生し、施設が壊れるという前提のもと計算されており、満潮で施設が壊れることにより浸水が始まるため、10分という早い時間で津波による浸水が想定されているものである。考えられる最大規模の想定により、示されているものである。

【坪田委員長】

かなり厳しめの想定がされているが、どういう想定なのかを、別冊などで説明をされたものがあればいいと思う。

【政石委員】

護岸が地震で壊れた段階で、浸水すると想定するならば、護岸が健全であった場合のシミュレーションを段階的に示すことはできないのか。

【事務局】

基本的に、最大時の場合を想定して示すようにしており、それに対しての対策をとっていくという考えでいる。

【小澤委員】

防災の担当から言うと、段階を設けてリスクを示すと、逆に安心感を与えてしまうため、最大時の所を見ることにより、それに対して防災行動をとることが重要である。津波は、全ての堤防が壊れると想定しており、さらに90センチの地盤沈下も考慮しているため、土地の低いところは、30センチ以上の浸水があることになっている。

【星加委員】

池田池の堤防が決壊した場合の想定では、避難所が浸水想定区域内に入っている。

【事務局】

避難所は、小学校と公民館であるが、基本的に2階以上で避難できる箇所である。今回は、リスクがあることを示している。

【藤田幸正委員】

ため池の堤体が崩れた時、貯水量によっても被害の影響が違うが、そこはどうか。

【事務局】

池田池にかかわらず、基本的に最悪のリスクで想定しており、ため池は満水時でのシミュレーションであり、また、台風時に満水時での破堤となっている。

【藤田敏樹委員】

基本的な考えとして、ため池の改修が終わった所については、災害対策が終わったと考えているのかどうか。

【事務局】

対策により、リスクの低減はできるが、ハザードを考える際には、対策をしたからリスクがなくなるという考えではない。

【政石委員】

主要機関とか主要建物、避難施設などは、耐震化のデータを反映してはどうか。さらに、主要道路だけでも調べていただければ。小さい道路まで全部は難しいと思う。

【坪田委員長】

避難所や主要建物についてもそうであるが、橋梁がある道路についても、耐震化のデータを反映することを検討してほしい。想定される避難経路が変わると思われる。

【事務局】

どこまで把握できるかということもあるが、避難所となる公共施設や主要道路について、データを反映できるように検討する。

【早瀬委員】

台風時であれば、洪水や土砂災害、ため池決壊などの複合的に起こる可能性が非常に高い気がするが、その際、単純にリスクを重ね合わせればいいのか、それ以上のものとなるのか。

【事務局】

ため池と土砂災害については、発生するエリアが離れていることもあり、両方のリスクがさらに大きくなるということは少ないのではないかと考えている。

【早瀬委員】

洪水はどうなのか。

【事務局】

洪水については、リスクが重なる部分もあるが、防災指針では、把握できていないところがあると認識している。

■次第2 課題と取組方針について

【早瀬委員】

課題について、例えば「命を守るための対策が求められる」とか「こうしていく必要がある」とあるが、求められるというのは、どこに求めるという意味なのかよくわからない。こちらとしては市役所さんがしないという意味なのか、そこら辺の表現の仕方ってどうなのか。

【事務局】

市としては、双方という考え方である。市としても当然求められるが、皆さんに周知をして、リスクがあるというのを認識してもらい、自ら行動していただく意味も含まれると考えている。

【早瀬委員】

市民に求める双方に求められるものと、市民には求めているものも多分ありますよね。例えば、「インフラの耐震対策が求められる」とあるのは、もう少し表現を変えると、「インフラの耐震対策を進める必要がある」という形の方が、他の上の命を守るための対策が求められるというのと区別ができていいかと。

【事務局】

違いがわかりやすいように、検討する。

【坪田委員長】

市が主体的に取り組むところと、住民にも期待するところっていうのは、表現を少し検討いただいた方がいいと思います。

■次第3 防災まちづくりの将来像と具体的な取組について

素案に対する意見なし。

以上